営農経済部からのお知らせ

水田は「土づくり」がとても重要です。
収量品質を安定化するために、“秋のすき込み”を実施してみてはどうでしょうか

営農経済課　TAC
藤井　拓也

秋のすき込みは以下の効果があります。

(1)すき込みを行う事で藁の分解が進みます。→ 初期の生育抑制が改善!

(2)すき込みにより、物理的な雑草防除で発生密度を減らすことができる。

(1)は、土壌改良資材を混ぜ込むのと同時に土壌中に酸素を取り込むことができます。酸素を十分に得た土の中では微生物の活動が活発になり、稲わらの腐熟がさらに促進し植物が吸収しやすい無機態窒素が生成されます。

(2)は、稲刈り後にも雑草は生育を続け、地中で来年の発生源となる塊茎を形成します。そこで、稲刈り直後から厳冬期までの間にすき込みを行い、雑草の地上部を埋没し、茎や根を切断することで塊茎の形成量を抑えることができます。

秋のすき込みは稲刈り後できるだけ早く、地温が高い10月までに行うのがいいのですが、できなかった場合、地温が低くても藁の分解に効果がある、下記「ワラ分解キング」の施用をおすすめします。

春に稲わらが残ると窒素不足やガスの発生等で初期成育が抑制されるので積極的に秋のすき込みを行いましょう。